

外科専門医(+消化器外科専門医) 研修ネットワークプログラム(中部版)

1 はじめに

プログラムリーダー 静岡県立総合病院 副院長 教育研修部長 高木 正和

全国的に外科医の減少が危惧されています。今日の外科医、とりわけ消化器外科医は診断、手術、術後治療(管理)、癌再発に対する化学療法や緩和的治療など非常に守備範囲が広く、そのため多くの他職種の医療者とのチーム医療の中でリーダーの役割が要求されています。

また、われわれは多くの症例を経験することで自らの手術手技と医療者としての人格を磨きますが、救えるのはいつでも目の前の患者ただ一人です。時間のかかる手術手技の習得に焦りを感じたり、無力感に襲われることもあることでしょう。

しかし、若い外科医からベテランの外科医まで、外科医には経験によって培われた様々な段階の技術や人格に応じて必ず救える患者が目の前に存在します。研修の途中でも必ず感謝してくれる患者がいます。外科医も決して捨てたものではありません。

われわれは外科医に与えられたこうした醍醐味を一人でも多くの外科医志望者に味わっていただければよいすべての施設の外科医が全力で協力します。



2 目的

外科医を志望する後期研修医が、静岡県中部の病院を3年間ローテートし、「外科専門医」試験に合格することを主目的としています。

すなわち、医の倫理を体得し、医療を適正に実践すべく一定の修練を経て、診断、手術および術前後の管理・処置・ケアなど、一般外科医療に関する標準的な知識と技量を修得することです。

さらに、同じ病院群で連続して経験を積んで「消化器外科専門医」取得を目指すことができます。

3 特徴

「外科専門医」を目指す後期研修医が、短期間で効率よく必修項目を研修できるように作成されたプログラムです。

ローテートするのは静岡県中部の公的病院で、いずれも手術件数の豊富な急性期病院です。一施設では経験する手術や疾患に偏りが生じることもあるため、このプログラムでは互いの施設が連携し、それぞれの特徴を活かして、外科診療を万遍なく学べるよう配慮されています。さらに本プログラムの「外科専門医プログラム」を終了した者が「消化器外科専門医研修プログラム」の対象となります。

各施設には「日本外科学会」、「日本消化器外科学会」の指導医または専門医がおり、責任をもって指導にあたりますが、出身大学が多彩でもあり、それぞれに“カラー”があると思われれます。同じ疾患でも施設や指導医によって治療方針、手術方法に違いがあることを知ることも広い見識を養ううえで重要であり、多施設研修の大きな利点です。

静岡市近辺は都会と地方が程良く混ざり合った土地柄で、エンジョイしながら勉強するには恰好の環境と言えます。ぜひこのプログラムに参加してください。

乳腺外科、上部消化管外科、大腸外科、肝胆膵外科にそれぞれ主任医長を置き、より専門的な外科治療を推進しています。がんをはじめとする多施設共同臨床試験にも多数参加しており、全国レベルの医療水準の維持と、標準治療の開発に取り組んでいます。

心臓血管外科、呼吸器外科はともに別の診療科ですが、専門研修の医師たちは各診療科間を交互に行き来してそれぞれの分野の手術経験を集積しています。また、同じ独立行政法人に属する「静岡県立こども病院」にて小児外科の研修が可能です。

静岡市立静岡病院の特徴

スタッフ 10 名（科長 2 名 医長 3 名 医師 4 名 後期研修医 1 名）

外科指導医 3 名 外科専門医 6 名

消化器外科指導医 3 名 消化器外科専門医 4 名

乳腺認定医 2 名

『静岡市が欲しい病院をめざして』が当院のモットーです。当科としては腹部疾患を中心に『体に優しい治療・根治性の高い治療』を目指しています。

従来の開腹手術に加え、内視鏡下手術に力を注いでおり、胃癌・大腸癌では腹腔鏡下手術が過半数を占めます。また、平成24年度からは胸部食道手術に胸腔鏡下手術を導入し、現在では胸部食道癌手術のほぼ全例を胸腔鏡下に施行するようになりました。胆石症・虫垂炎・ソケイヘルニア等では単孔式腹腔鏡手術も積極的に導入しています。

一方、肝臓癌・胆管癌・膵臓癌の外科治療には、標準的な切除・再建術だけでなく、症例に応じた拡大切除術・血管再建術等の経験が豊富です。肝切除・膵尾部切除は症例に応じて腹腔鏡下手術を導入しています。そして、救急指定病院の外科チームとして外傷・救急疾患の治療にも力を入れており症例も豊富です。当科での研修で消化器外科専門医にむけての良いスタートをきっていただけたと思います。

静岡市立清水病院の特徴

スタッフ 9 名（部長 1 名、科長 5 名、後期研修医 3 名）

日本外科学会指導医・専門医 4 名 日本外科学会専門医 2 名

日本消化器外科学会指導医・専門医 3 名

静岡市は2005年4月の政令指定都市の移行に伴い三つの行政区が誕生して旧清水市は清水区となり、当院も「清水市立病院」から現名称となりました。

当院の病床数は500床ですが、500床以上の総合病院は旧静岡市に4施設あるのに対し、清水区には当院のみですので、外科診療に関しては当院が24万区民の最大の受け皿になっている状況です。

外科は一般・消化器外科、乳腺外科、血管外科を中心に診療を行っていますが、このような事情から手術対象疾患が万遍なく分布していることに加え、緊急手術と高齢患者が多いのが特徴です。若手医師に執刀の機会を多く与える方針としていますので、研修期間中に充実した手術経験が得られるものと確信しています。消化管内視鏡検査は外科独自でも行っているため、同時に内視鏡検査の修練も可能です。

また、学会発表、論文作成も積極的に行っており、可能な限り指導いたします。

静岡赤十字病院の特徴

外科専門医12名 外科指導医 3名
消化器外科専門医 3名 消化器外科指導医 3名 呼吸器外科専門医 1名
心臓血管外科専門医 2名

当院は昭和8年に開設し、病床数が517床の急性期病院です。

当科の後期研修医は、関連大学の医局からの派遣（慶應大学、浜松医大、昭和大学、東京医科歯科大学など）、当院の初期臨床研修医から残る者など随時3-4人で勤務しております。一般・消化器外科と呼吸器外科を研修し、常時10-20人程度の入院患者を受け持ちます。希望にて心臓血管外科手術に参加出来ますので外科専門医取得のための必要件数はほぼ経験可能です。

業務内容は手術を中心に救急外来を含む外来業務、病棟業務、各種検査（超音波、内視鏡、消化管造影など）を行っておりますが、多職種チーム医療として栄養サポートチーム、緩和ケアチームでの活動も日常的に行っております。希望にてTNT（total nutrition therapy）研修会や医師のための緩和ケア講習会、マンモグラフィ検診講習会などへの参加も奨励しています。（当方にて費用負担致します。）また、日本静脈経腸栄養学会の認定教育施設と日本緩和医療学会の認定研修施設でもあり、数年の研修にてそれぞれの認定医の取得条件可能です。

初期臨床研修医は1年目2年目併せて20人以上おり、外科には1年目研修医が必修科として3カ月毎に3人ローテーションします（2年目は任意）。初期研修医への指導も後期研修医にとって大事な研修項目として考えております。

診療方針：全ての患者の治療方針は、原則としてガイドラインに沿いながらも様々な視点より検討することとを是としているため、全体カンファレンスで決定しています。よって個々の医師の判断ではなく、静岡赤十字病院外科として一貫した診療をしています。

主な診療疾患：がん（消化器全般、乳腺、肺など）、胆石・総胆管結石、そけいヘルニア、緊急手術疾患全般（虫垂炎、消化管穿孔、外傷など）

市立島田市民病院の特徴

外科スタッフ8名（うち常勤7名） 外科専門医5名
消化器外科専門医1名 消化器病専門医2名 消化器内視鏡専門医2名
大腸肛門病専門医1名 がん治療認定医2名 乳癌認定医1名
マンモグラフィー読影医6名 救急専門医1名

当院（病床数536床）では、患者さんそれぞれの疾患に対する不安を取り除くことから始まり、疾患の相談、検査、診断、手術・治療、さらには化学療法、ターミナル・ケアを含めたトータルケアをチーム医療で提供するように努力しています。

治療方法も多様化し、それぞれの患者さん達のニーズも広がり、また、とくに高齢者で合併症を持ちながら手術を受けなければならない状況の方々が増加してきた現在では、低侵襲なものから多臓器合併切除に至るまでのあらゆる選択肢を提示し、その根治度、合併症、術後の生活QOLに至るまで、個々の患者さん、そのご家族に100人100様の治療法を提示し、十分な納得の下に治療選択をされるように心がけています。

研修される方々には、外科という手技のみならず、患者さん個々のおかれた状況、環境、病態を十分に判断してその個人にはどんな治療がベストか十分に検討し、患者さんの立場に立った医療を学んでいただく密な個別指導を受けていただきたいと思います。

腹腔鏡手術に関しては胃癌、大腸癌をはじめ、虫垂炎、鼠径ヘルニア、腸閉塞、脾臓などにも行なっています。基本的に同じメンバーで手術を行うことにより、術式を定型化し、安定した手技を誰もがこなせることを目指しています。

また外科医も消化管内視鏡検査技術は必要と考え、内視鏡検査の外科枠を確保し、消化器内視鏡専門医による指導体制も整えております。必要に応じて消化器内科医師の指導を受けることも可能です。

焼津市立総合病院の特徴

外科スタッフ13名（うち常勤12名）

外科専門医 7名 外科指導医 3名

消化器外科専門医 2名 消化器外科指導医 2名

胸部外科指導医 1名

呼吸器外科専門医 2名 呼吸器外科指導医 1名 大腸肛門病専門医 3名

がん治療認定医 2名 腫瘍学会暫定指導医 1名 内視鏡外科技術認定医 1名

呼吸器内視鏡学会専門医 1名 呼吸器内視鏡学会指導医 1名

当院は病床数471床で、静岡県中部志太榛原地区の中核的病院のひとつです。

呼吸器外科・血管外科は独立することなく、外科として診療をしています。消化器・一般外科に関しては、がんの手術が約30%、緊急手術症例が約25%と、あまり偏ることなくさまざまな手術症例を経験することが可能です。

緊急手術症例では消化管穿孔、絞扼性イレウス、ヘルニア嵌頓、虚血性腸疾患等、幅広い症例の診断・治療・術後管理を経験することが可能です。

当科ではレジデントに執刀医を任せる体制をとっています。術中はもちろんのこと術後管理についても指導医は親身にサポートし安心・安全に研修ができるよう心がけています。

7 病院群の実績

静岡県立総合病院 平成24年度（24.4～25.3）の年間手術件数

（呼吸器外科と心臓血管外科は独立して存在）

- ・ 原発性乳癌症例：手術症例 326 例、マンモトーム針生検 152 例（ST 下 113 例 US 下 39 例）
- ・ 胆 道 / 膵：[腫瘍性病変] 切除例数 50 例、[良性非腫瘍性病変] 総手術数 66 例
胆石症などに対する胆のう切除 164 例
- ・ 上部消化管：胃に対する手術（胃・十二指腸潰瘍穿孔・出血手術 11 例
胃非上皮性腫瘍手術 3 例、胃癌 186 例）
食道に対する手術（良性疾患 9 例、食道癌 57 例）
- ・ 大 腸 癌：総手術件数 325 例：開腹手術 202 例、腹腔鏡補助下手術 122 例、経肛門的手術 1 例
- ・ 肝 臓：肝細胞癌 62 例、肝内胆管癌 4 例、転移性肝癌 22 例、その他肝疾患 5 例
計 93 例
- ・ そ の 他：鼠径ヘルニア 140 例、腹壁ヘルニア 33 例、虫垂炎 60 例、痔疾患 10 例

静岡市立静岡病院 平成24年度(24.4~25.3)の年間手術件数

()内は腹腔鏡下手術件数

- ・食道：食道亜全摘 15例 (14例)
- ・胃：胃全摘 24例 (12例) 胃切除 32例 (21例) 潰瘍穿孔部閉鎖 6例 (5例)
バイパス術 2例 (1例) 胃瘻 4例
- ・小腸：腸切除 21例 (1例) 吻合・剥離 32例 (4例) 腸瘻 11例
- ・虫垂切除：55例 (47例)
- ・結腸切除：105例 (62例)
- ・直腸切除：48例 (37例) 直腸切断 6例 (2例) 骨盤内臓全摘術 1例
- ・人工肛門：(造設・閉鎖) 83例 (5例) 痔疾患 19例
- ・肝切除術：21例 (2例)
- ・胆道：胆のう摘出・総胆管切石など 143例 (117例) 拡大胆摘・胆管悪性腫瘍手術 5例
- ・膵：膵頭十二指腸切除 7例 膵体尾部切除 4例 (1例) 膵炎手術など 2例
- ・脾：脾摘術など 10例 (4例)
- ・乳腺：胸筋温存乳房切除術 18例 乳房温存術式 27例 良性乳腺手術 2例
- ・ヘルニア：219例 (73例)
- ・その他：100例 (15例)

○合計：1,022例 (423例)

静岡市立清水病院 平成24年度(24.4~25.3)の年間手術件数

- ・乳癌手術 47例
- ・胃癌手術 26例
- ・肝切除術 12例
- ・大腸癌手術 94例
- ・腸閉塞手術 18例
- ・鼠径ヘルニア 123例
- ・血管外科手術 149例
- ・食道癌手術 0例
- ・膵脾領域手術 9例
- ・胆石手術 30例
- ・痔手術 17例
- ・虫垂切除術 35例
- ・小児外科手術 1例
- ・その他 124例

○合計：685例

静岡赤十字病院 平成24年度部位別手術症例数

- ・上部消化管がん(食道、胃) 38例
 - ・下部消化管がん(小腸、大腸) 104例
 - ・肝胆膵 84例
 - ・そけいヘルニア 95例
 - ・虫垂切除 64例
 - ・乳腺・甲状腺 105例
 - ・肺縦隔 50例(緊急手術 60例)
- 内視鏡手術も食道(がん、ヘルニア)、胃(がん)、大腸(がん、憩室症、炎症性腸疾患など)、胆石症では標準術式として行っています。

市立島田市民病院 平成24年度（24.4～25.3）の年間手術件数 総数662例

消化器・乳腺外科手術の主な件数（括弧内は腹腔鏡手術件数）

- ・胃全摘術 26例（6例）
- ・幽門側胃切除術 34例（11例）
- ・結腸切除術（良性疾患を含む） 76例（30例）
- ・前方切除術 13例（5例）
- ・直腸切断術 7例（1例）
- ・肝切除術 8例（1例）
- ・膵頭十二指腸切除（PPPDなど含む） 15例
- ・胆嚢摘出術 78例（74例）
- ・虫垂切除術 57例（37例）
- ・鼠径部ヘルニア 140例（34例）
- ・乳癌手術 43例

焼津市立総合病院 平成24年度（24.4～25.3）の年間手術件数

年間総手術件数：723件

消化器一般外科手術件数 515件

- ・胃に対する手術 45件
- ・大腸に対する手術 84件
- ・胆嚢摘出術 79件（うち、腹腔鏡手術61件）
- ・ヘルニア根治術 123件
- ・虫垂切除術 74件
- ・乳腺外科手術件数 72件
- ・呼吸器外科手術件数 66件
- ・血管外科手術 13件（おもに下肢静脈瘤手術）

8 研修参加者の要件、申込期限及び処遇

募集人員 2名

1) 要件

書類審査及びプログラム運営委員による面接を行い決定。

2) 申込期限

原則として10月末までに、「静岡県専門医研修ネットワークプログラム申込書」を本部又は中部支部事務局あてにお送りください。（期限後の申込はご相談ください）面接等を実施の上、12月を目途に研修病院等を決定します。

3) 処遇

①身分、②給与、③福利厚生制度、賠償責任保険、休日等、宿舍、学会費用

※プログラム上は当該コース（制度）に沿った研修を受けていただきますが、身分や給与等の処遇は研修を受けるそれぞれの病院の規定によるものとします。

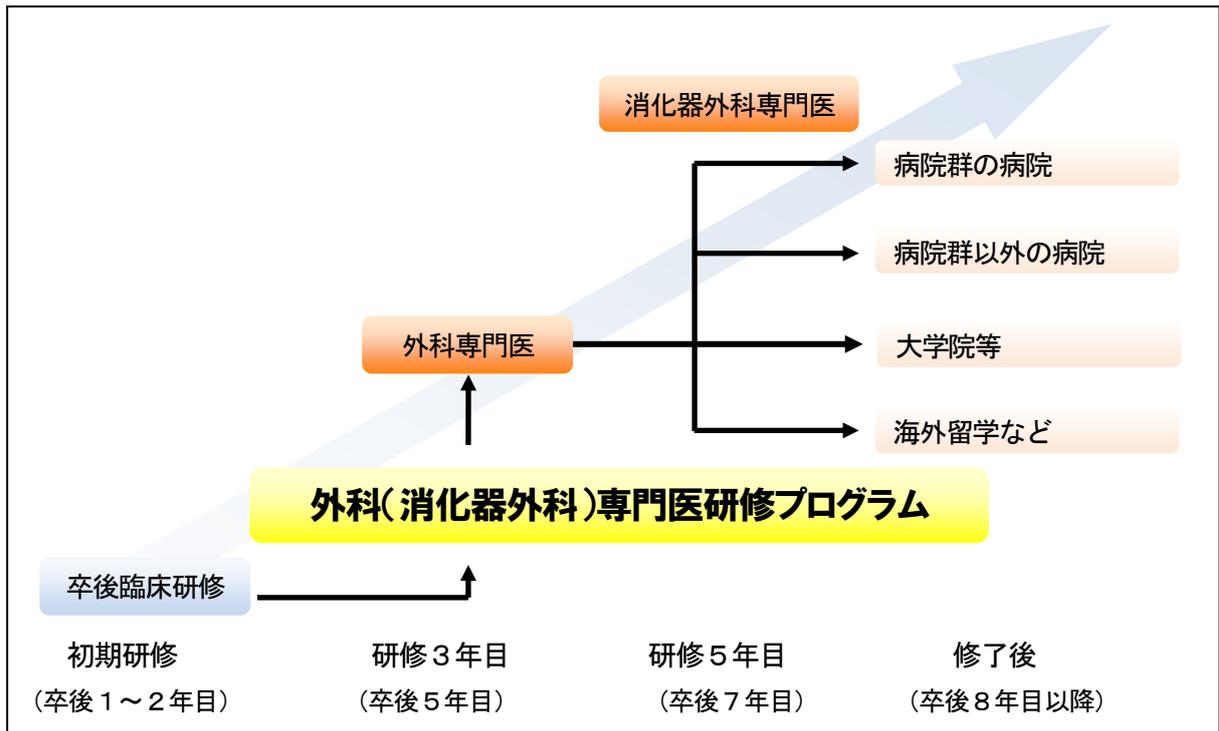
9 研修終了後の進路

プログラム終了後の進路

3年間の後期研修プログラムで「外科学会専門医」を取得します。
後期研修終了後の4年目からは「消化器外科専門医」の取得をめざして（2年間）当病院群での継続した修練、もしくは以下の就職先での修練が可能です。

- 1) 病院群への就職（欠員があれば常勤医師として就職可能）。
- 2) 関連する大学医局への入局を推薦することが可能。
- 3) 病院・医師のネットワークにて就職の斡旋が可能。
- 4) 個別の相談に応じます。

プログラム参加者のキャリアプラン



10 プログラム運営委員（◎ プログラムリーダー）

◎静岡県立総合病院 副院長 教育研修部長 高木正和(1980年 北海道大学医学部卒)

静岡市出身。北海道大学卒業後、東京大学第2外科、藤枝市志太病院（現藤枝市立総合病院）、癌研究会付属病院にて研修。膵移植の実験などにより学位取得後、昭和62年より静岡県立総合病院勤務。

専門は食道・胃などの上部消化管外科、および同領域の化学療法。

日本臨床腫瘍グループ（JCOG）の胃と食道のグループに属し多くの臨床試験および治験に参加している。

外科専門医および消化器外科専門医を目指す若い外科医のみなさんに現時点の標準治療を多く経験してもらい、さらにそこから新しいより有効な標準治療の開発に向けての研究を経験してもらいたい。



静岡市立静岡病院 外科医長(教育研修管理室科長) 米沢 圭(1992年 京都大学医学部卒)

1992年京都大学医学部卒、2007年より当院に勤務しています。

認定資格は日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本がん治療認定機構暫定教育医・認定医、日本乳癌学会・乳腺認定医。

消化器外科・乳腺外科全般に従事しています。

当科では消化管手術では積極的に内視鏡下手術を導入しており、一方、肝胆膵手術では症例に応じた拡大手術や血管再建の経験も豊富です。

消化器外科専門医を目指される先生方にとって、きっと魅力的な研修になると思います。

外科専門医研修の一環として、症例豊富な当院心臓血管外科・呼吸器外科でも研修が可能です。外科専門医としての能力の幅を広げていただければと思います。みんなで一緒に勉強していきましょう。



静岡市立清水病院 診療部長 丸尾啓敏(1981年 秋田大学医学部卒)

浜松医科大学第二外科、清水市立病院、東芝病院などを経て、2010年4月から当院外科科長として赴任しました。

認定資格、学会活動は、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝胆膵外科学会評議員・高度技能指導医、日本腹部救急医学会評議員、浜松医科大学臨床教授、など。

当科は各医師の専門領域にこだわらず、「ひとりの患者を全員で診る」ことをモットーに互いに協力し合っています。後期研修医諸君には外科治療の技術的な面だけでなく、患者とどう向き合っていくかを学んでもらいたいと思います。諸君に教え、指導することは私たち自身の勉強にもなります。一緒に働けることを楽しみにしています。



静岡赤十字病院 第一外科部長 白石 好(1993年 慶應義塾大学医学部卒)

認定資格は日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本静脈経腸栄養学会評議員・認定医、日本緩和医療学会暫定指導医。

1999年度より当院に勤務しております。赴任して13年になりますが、長期にわたり勤務しているからこそ地域に密着し患者、家族と信頼関係を軸にした医療が提供出来るものと考えています。治療方針は「患者のQOL」を第1に考えることを信念としており、当院にはそのためのチーム医療（看護師、コメディカルとの連携）が出来る環境であると自負しております。スタッフも若く活気に満ちており、後期研修医とともに日々の診療を楽しんでいます。皆さんと診療が出来ることを心よりお待ちしております。



市立島田市民病院 外科医長 磯野忠大(2001年 浜松医科大学卒)

浜松医科大学第一外科研修後、2009年4月より当院にて勤務。

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本乳癌学会認定医他。主に消化管内視鏡手術、乳腺治療を担当。

現在外科常勤スタッフは7名（うち外科専門医5名）と研修医1～2名で診療に携わっていますが、元外科主任部長 木村貴彦（1984年卒）を外科顧問として迎え、若い先生の手術指導にあたっています。

外科専門医研修の一環として、当院呼吸器外科での研修も可能です。

毎朝のカンファレンス、週1回の消化器科・放射線科との合同カンファレンス、週1回の乳腺カンファレンスなど行っています。

比較的若いスタッフですが、充実したチーム医療を目指しています。



焼津市立総合病院 消化器外科長兼中央手術室副室長 高林直記(1987年 浜松医科大学卒業)

浜松医科大学第一外科、静岡県立総合病院、共立菊川病院（現菊川市立総合病院）等での研修を経て、1995年より当院外科に勤務しています。

当科在職中に外科専門医・日本外科学会指導医、消化器外科専門医・日本消化器外科学会指導医、日本内視鏡外科学会技術認定の各資格を取得しました。

また、医療安全にも関心があり、当院のリスク・マネージャーも務めています。1人でも多くの、消化器外科医を目指す若手外科医とともに仕事ができることを期待しています。

